

学校教育計画（平成28年度～平成31年度）

学校名	光陵高等学校	課程・学科 教育部門・学部	全日制課程普通科
-----	--------	------------------	----------

1 学校のミッション

これまで、「知識基盤社会」に必要とされる主要能力（キーコンピテンシー）の定着をめざし、教育課程の研究開発等に先進的に取り組んできたが、今後はさらに、生徒が自ら課題を発見し、解決する力や思考力・判断力・表現力等を一層育むことをめざした不断の授業改善の実施等、時代や社会の変化に柔軟に対応できる資質・能力の育成に向けた教育活動の充実に取り組む。

また、中・高連携による新たなカリキュラムの研究開発、中・高・大の連携型教育の検討、平成28、29、30年度の3年間「教育課程研究開発校（新たな学習評価に係る研究）」として研究開発に取り組み、その成果を地域の県立高校に様々な機会を設けて普及するとともに、平成28、29年度の2年間「学力向上進学重点校エントリー校」として平成30年度の学力向上進学重点校の指定に向けて取り組む。

2 学校教育目標

- 変化の激しい時代に対応できるよう、生徒に高い目標を持たせ、自ら発見した課題を解決していく思考力や判断力を育む。
- 高い進路目標を持つ生徒一人ひとりの進路実現に向けた支援を行うとともに、豊かな教養を身につけさせ、次代を担う心やさしき社会のリーダーとなる力を育成する。
- 部活動や学校行事をさらに充実させ、豊かな人格形成に努める。
- 横浜国立大学および横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校との連携を一層深め、中・高・大の連携型教育の検討を進展させる。
- 教職員一人ひとり、また教職員集団として授業改善に努め、成果を広く発信する。

3 計画作成時点での課題

- 「光陵ユニバース（KU）」の取組姿勢、有効性の理解に、生徒による差がある。意欲の低い生徒の「光陵ユニバース」への意欲を高める課題がある。
- 部活動入部率が高く、部活動に真剣に取り組む生徒の進学実績も高いことを生徒に実感させる必要がある
- 進学にあたって第一志望を維持できず、志望校を変更する生徒もいる。
- 高大接続に係る新たな制度について、合教科型の作問、記述型の作問等について中教審答申から後退の傾向が見える。合教科型（光陵では研究開発にあたって教科横断型とした）科目構築など、研究開発内容のノウハウが生かされない気がかりがある。
- 保土ヶ谷養護学校との交流はあるが、日常からの小学校、自治会等との連携は多くない。地域の期待に応える資質を持つ生徒であり、地域連携の推進が課題である。
- 施設の老朽化等、学習環境に課題がある。

4 4年間の目標と主な方策

	視点	4年間の目標	目標達成に向けた主な方策
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化に柔軟に対応し、社会に貢献できる力の育成を目的として、授業改善をさらに進める。 ・高大接続を見据えた教育活動の展開、中・高間の教育活動の連携を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全般にわたり、授業の場で使用可能なルーブリックの作成を軸とした評価法の研究を進展させ、研究をとおした組織的な授業改善をさらに進める。 ・横浜国立大学との中・高・大連携型教育を探求する。
2	生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の充実をさらに図り、リーダーシップと、協働し支える力を育む。 ・生徒一人ひとりに応じた支援をおこなう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高い部活動加入率を維持するとともに、部活動経験が生徒の主体性や創造性、社会性を高めることを意識させる。 ・様々な場面での活動をとおして、生徒の主体的な活動を支援する。
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりが、能力や特性を活かして社会に貢献できるようキャリアガイダンス等の充実を図るとともに、希望する進路実現に向けた支援をおこなう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身が将来をイメージできるようなキャリアガイダンスを高大連携を視野にいれて実施する。 ・生徒一人ひとりが志望する進路実現に向けて支援する。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携を推進することで、生徒の社会性や協働する力を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保土ヶ谷養護学校との交流事業を継続して実施する。 ・近隣の学校、自治会等との連携、交流を進展させ、生徒の参加を促す。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全体が、質の高い授業づくり、施設、防犯等に心を配り、生徒が安心して通うことのできる、安全で楽しく、心温まる学校環境づくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループが主体となる不祥事防止会議を実施する。 ・将来のコミュニティ・スクールに向けた職員周知を行う。 ・生徒の教育環境を保証する視点に立った耐震補修計画、工事を求める。